
ネギま!?-黄金の英雄王-

Rumia

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギま！？ - 黄金の英雄王 -

【Nコード】

N2055W

【作者名】

Rumia

【あらすじ】

黄金の英雄王がネギという少年に召喚され何故かわからないうちに兄弟みtainな関係になってしまった二人の物語

プロローグ

この物語はあるひとつの出会いから始まったのだった。

「やれやれ、今回はどのようなマスターが我^{おれ}を召喚……い!？」

黄金の鎧を纏った男は何もない空中から出現した。
高さは400〜500メートルくらいはあるだろう。

「うおおおお……ぐはっ！」

男は地面に叩きつけられた。

「さすがにこの高さは無理だろう……」

男は気を失った。

そこにひとりの少年が歩いてきた。

「たしか食べれるような木の実がこちら辺に……?？」

少年は何かを発見したがそれは予想外のものだった。

「わわ!？木の実じゃなくて人をみつけちゃったよ?？どうしよう!？」

少年は慌てふためいているところに、

「どうしたの〜ネギ〜?」

ひとりの女子がやってきた。

「お姉ちゃんたたた大変なんだよー!!」
ネギと呼ばれた少年はまだ慌てたままだった。

「深呼吸して落ち着いて話してネギ」

お姉ちゃんと呼ばれた女子がネギに言った。

「いつもみたいに木の実を探してたんだ、そしたら人が倒れてて…」

少年は今までの経緯を話した。

「人が倒れてるですって!?!どこに倒れてるの?」

女子はネギに聞いた。

「こつちだよ!」

少年は黄金の甲冑を纏った男の元に案内した。

「綺麗な甲冑ねーじゃなかったわね、とりあえず家まで運ぶわよ!」

女子は男を家まで運んだ。

「う……どこだここは?」

男は目を覚ました。

「目が覚めた?僕はネギ・スプリングフィールドって名前でネギっ

てよんでね」

少年は名前を名乗ったあとに事の経緯を話した。

「そうか、それはご苦労だったな」

それから男は気づいたように少年に聞いた。

「ネギといったか？ちよつと腕をみせてみる」

ネギは首をかしげながら腕を男に見せた。

「そうか、お前がマスターか…」

「マスター？」

少年は首をかしげた。

「お前の腕に紋章があるだろう？それがマスターの証だ」と男は言った。

「本を音読したせいかな？」

「音読で呼び出されたのか我は…」

すごい落ち込む男。

「あゝあなたの名前は？」

少年はおそろおそろ聞いた。

「我の名前はギルガメッシュと言った」

これが今から始まる二人の物語

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2055w/>

ネギま!?-黄金の英雄王-

2011年10月9日15時04分発行